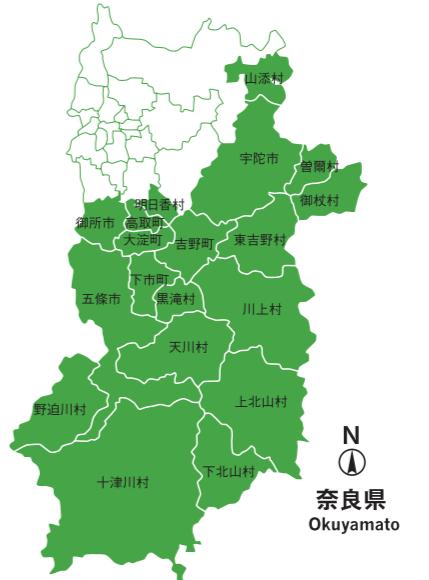




Local  
Life  
Vol.5



in Nara Okuyamato

どこまでも広がる広大な森、美しき木々。

その豊かな恵みとともに

生きる人たちがここにいる。

都会のリズムに疲れたら、彼らに会いに来るといい。

奈良・奥大和の森が、あなたを待っている。



発行元・問合せ：「奥大和移住・定住連携協議会（事務局：奈良県奥大和移住・交流推進室）」

☎0744-48-3016 団奈良県橿原市常盤町605-5 [Facebook「奥大和移住定住交流センター engawa」](#)

※このパンフレットは2017年12月に取材をおこない、2018年3月に発行したものです。情報は変更となる場合がございますので、最新の情報や詳細については各施設へお問合せください。

Local Life  
in Nara Okuyamato

# FORESTRY

They nurture a forest.

# 人の手が創る 五百年の森へ。



日本の林業を代表する吉野林業。

その歴史は古く、今日まで実に500年以上もの間山の守り人たちの手により受け継がれてきた。

世界に類を見ない美しさを誇る吉野杉をはじめ、

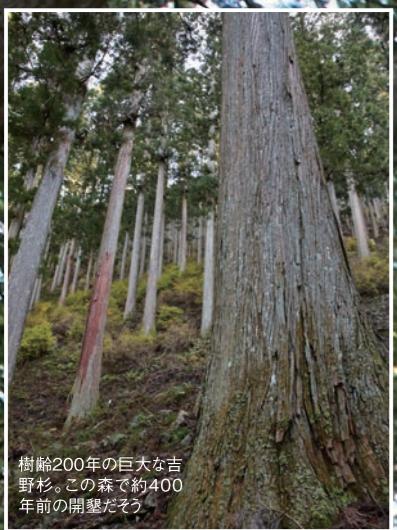
吉野の木材がどのようにして育まれ、磨かれ、人の手に渡るのか。

森と木々と人の手が織りなす物語を通して、

奈良・奥大和の「林業の今」をお伝えする。

## 吉野林業の未来を、 明日へ繋げる道づくり。

吉野林業の特徴のひとつが「密植」だ。通常の約3倍の密度で木を植えることで、成長を遅らせ年輪の幅を狭くし、木目がますぐで美しい吉野杉を育てる。苗を植え、草を刈り、こまめに枝を打つ。優秀な木を選別し、間伐を行う。一本の木が成長するまで、時間が遠くなる年月をかけ育てられた吉野杉が、最高級木材と呼ばれるのも頷けるだろう。しかし現在、吉野林業が置かれている環境は厳しい。需要の減少や値下がりによって採算が取れず、昔のような頻度で植林ができないのが現状だ。間伐を行っても集材費用がかかるためそのまま放置されている例も多い。「集材用トラックが入れる作業道を整備することで、持続可能な林業にしていきたい」と語るのは、清光林業で相談役を務めている岡橋さん。地域おこし協力隊員や林業志望の研修生などに作業道づくりの指導を行っている。岡橋さんが取り組む「大橋式作業道」は高密度な路網を山林に巡らせることで、集材などの作業効率をあげ収益性を高めるもの。道づくりには山崩れなどのリスクもあるため、地図や航空写真で事前調査を行い、現地を歩いて何度も確認を行う。路線を読み誤れば作業中に工事を中止することもあるそつ。そうして慎重に造られた道が今、吉野の山林に広がっている。「林業収入が増え、林業に携わる人が増えるのが夢」と岡橋さん。今日も次世代のリーダーを育てるために吉野の森を奔走している。



from 吉野町

YOSHINO  
CHO



清光林業

1900haの所有林をもち、江戸時代から300年以上続く林業社。「大橋式作業道」の設置を中心とした循環型林業の普及に取り組んでいる。

0746-32-8515

奈良県吉野郡吉野町飯貝701

# FORESTRY

They nurture  
a forest.



作業道がなく車が入れない場所からヘリコプターを使用して集材された木々。巨大な丸太が山を越えて運ばれてくる様子は圧巻だ。

矢人たちは傲いながら、山の流儀を身につける日々。



黑滙村森林組合

山を健全な状態で維持するため、定期的に枝打ちや間伐などの手入れを行う。他にも作業道の設置や獣害のフェンスづくりなど業務は多岐にわたる。

☎0747-62-2124  
所奈良県吉野郡黒滝村寺戸154

木の栽培おこし協力隊員として、森林組合の業務に勤しむ住吉さん、久喜さん、辻本さん。早く朝から山に入り、日が落ちるまで造林、間伐など山林の整備業務に励んでいます。「先輩方のやり方や動きをよく観察し、自分も同じように出来るよう色々なことに挑戦しています」と辻本さん。若手三人で力を合わせながら、一人前の林業家を目指す日々だ。



原木を目的に応じた長さにチェーンソーでカット(手切り)



大木を吊り上げるためのワイヤーを設置。周囲との連携が重要



山林に分け入り、曲がりくねった道を上る。ところどころ凍結した道を慎重に進むことを30分。豊永林業で作業道づくりに従事する風谷さん、國不さん、鉢呂さんの仕事場に到着だ。山側の斜面、路肩、路面の下に丸太を組んで補強をし、土を盛つて崩れない道を作り。酷寒の中での作業は想像以上の重労働だけに、チームワークは欠かせない。一人が重機で丸太を配置し、一人がチエーンソーで長さを切り揃え、残り一人が丸太に釘を打ち付けていく。作業が終われば次の区間へと移動を繰り返し、瞬く間に補強区間が伸びていく。これまさにチームプレイ。道なき林に道を作る作業道づくりの最前線は、彼らの熱意と技術支えられている。

**A** 現在のお仕事について、こだわっている事や工夫を教えてください。



豐永林業

下市町、黒滝村、天川村などで作業道開設のほか、間伐や架線による集材、乾燥原木の注文販売や木工品の販売代理など幅広く事業を展開している。

0747-52-2026  
奈良県吉野郡下市町下市135

from 下市町  
SHIMOICHI  
CHO



神戸市から移住した國米さんと枚方市から移住した鉢呂さん。リーダー風谷さんのもと、チームで作業に取り組んでいる。



They nurture  
a forest.

## 「林業を若い人の憧れに」 豊かな自然と共にある働き方。

国の天然記念物に指定されている鎧岳、兜岳が見下ろす曾爾村。曾爾高原をはじめとした美しい自然に囲まれたこの地に、林さんが移住したのは2016年の4月のことだ。曾爾村地域おこし協力隊に所属し、村の森林組合のサポート担当を行っている。仕事の内容は測量や伐採、草刈りから、事務作業、原木市場での配列作業など多岐にわたる。「ほぼ毎日山に入る生活ですね」と林さんは。人の手が入った山林は、実は虫や動物たちにとっても暮らしやすい環境。そんな豊かな森の環境が10年後、100年後にも残るよう、責任をもつて次の世代に受け渡していくいたと熱い想いを語ってくれた。



from 曾爾村  
SONI MURA



曾爾村地域おこし協力隊  
林 宙(ひろし)さん

田舎暮らしは初めての林さん。山林で体を動かす毎日で、すっかり体調も回復。近頃は健康に気を使い自炊もはじめたそう。



曾爾村森林組合

造林や間伐などの山林業務のほか、定期的に開催している原木市を運営。木材を使用した産業振興や、新たな木材利用法の開発などにも取り組んでいる。

☎0745-94-2611  
奈良県宇陀郡曾爾村今井97



▲丸太は転がりやすいため、配列するのは大変

**A** 実際に林業に携わってどんなところがよかったです?  
**Q** 個人で林業を始めた前は、どんなことをされていましたか?  
**A** 朝6時起きで生活が安定しました。今は農林業公社にも所属し、薪ストーブの販売や製材所再開に関わる仕事にも携わっています。  
**Q** 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。  
**A** 林業は森を手入れすることで災害を防ぎ、水質も改善するなどリアルに環境問題の改善に携われる。環境問題に意識が高い若者たちのお手本になりたいですね。  
**Q** 曽爾村で林業を始める前は、どんなことをされていましたか?  
**A** 自然素材メーカーの営業をしていました。当時は忙しく寝る時間も惜しいで働いていて、体調を崩したり悲しい出来事があったため、思い切って仕事をやめ、以前から興味があった林業の世界に飛び込みました。



## 自立に向けて一步一步 自伐型林業に挑戦!

from 下北山村  
SHIMOKITAYAMA MURA



羽曳野市から移住した小川さんと鎌倉市から移住した小野さん。二人とも山での暮らしや環境問題、林業に興味があった。

県内有数の森林地帯である下北山村で、林業に従事する地域おこし協力隊員の小川さんと小野さん。一人は先に紹介した清光林業の岡橋清隆さんに師事し、作業道づくりを学んだ。村が所有する山林までの道を設置するため、途中にある山の所有者と交渉を行い、力を合わせて少しずつ道を延ばしてきた。現在は麓から500mほど位置まで進んだという。彼らが取り組むのは、山林所有者自らが伐採や集材を行う「自伐型林業」。全てを自分たちで行うのは大変だが、その分愛着も湧く。大好きな森で仕事ができる幸運を噛みしめていると、二人で口を揃えていた。

◆丸太の壁で水の流れを変えるなどして、よりよい場所に道を設置するそ

### 下北山村地域おこし協力隊

奈良県の東南端にある山深い村で自伐型林業に挑戦。移住体験ツアーの中で一般者向けの林業体験を実施するなどの活動も行っている。

☎07468-6-0001(下北山村役場)  
奈良県吉野郡下北山村大字寺垣内983



**A** 現在のお仕事について、こだわっている事や工夫を教えてください。  
**Q** 「山に入らせてもらっている」という気持ち、木という生きた命を扱っているということを忘れないように心がけています。それが安全な作業にも繋がってくると思っています(小野さん)。  
**A** 吉野杉や、吉野の木材に関しての印象を教えてください。  
**Q** 吉野杉の山林は、すごく手入れをされ立てて立ち木の状態や間伐具合も素晴らしいです。とてもいい木材だと思います(小川さん)。  
**A** 下北山村の林業は、吉野林業とは違いますが、(吉野のやり方を取り入れていかながら「下北山村ならではのやり方を見つけていきたいですね(小野さん)。夢や、将来の展望などがあれば教えてください。  
**Q** 3年間という任期のあとも、村に定住して森づくりをしていきたい。林業に限らず他の分野にもアーチテクツを張って、新たな可能性を探ていきたいと思います(小野さん)。

SAWMILL

Process logs  
to make  
wooden materials.

「心豊かにする」ものづくり。



「売れるから、儲かるからでは続かない。好き、新しい、ワクワクがない」と語るのは、坪岡さん。故郷である吉野の町の風景が、年を追うごとに色々なものを提案すること。手がけたある薬局では、暮らしや空間のケアを「ンセプトに、吉野杉や桧の温かみが溢れ、JAZZが流れる癒しの空間に仕上げたそう。「生活者と向き合い、日々の暮らしが豊かになるものづくりを心掛けていたい」と語る坪岡さんの視線は、ますます未来を見据えている。



#### 坪岡林業

「木のある佇まい」をコンセプトにブランドを立ち上げ、心が豊かになる家具や空間づくりをプロデュースしている。

☎0746-52-0118  
■奈良県吉野郡吉野町橋屋1



①和室の内装や化粧材に使用される突板 ②吉野杉で作ったキャリーバッグ。味わい深い雰囲気 ③手掛けた薬局の内装。木が多く使われ落ちついた空間



## 見て、触れて、過ごして感じる 吉野材を使った家の魅力。

「余すところなく吉野材を使った家づくり」をテーマにした住宅プロジェクト「吉野STYLE」を主宰する阪口さん。「木の家の魅力を肌で感じてほしい」と製材所内に2つのモデルハウスを建築した。柱に11種類もの木を使用して違いを見せたり、目に見えない場所にも吉野材を使用したりと工夫が凝らされている。「実際に見て触ってもらえば値打ちが伝わるはず」と阪口さん。次世代に「吉野材の家づくり」を伝えるべく、ここ吉野の地から魅力を発信している。



#### 阪口製材所

エンドユーザーを見据えた空間づくりを行う創業70年の製材所。写真の「吉野サロン」でユーザーと家づくりの打合せなどを行う。

☎0120-558-153  
■奈良県吉野郡吉野町丹治113



Q 現在のお仕事について、こだわっている事や工夫を教えてください。  
A 天然乾燥の吉野材にこだわっています。木の色艶や香りが段違いによくなるので手間やコストはかかりますが、最低でも1年以上は乾燥させています。

Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。  
A 近年はDIYの需要も増えています。家や木材のプロとして、お客様と一緒に家を作っていく育てていくスタイルを増やしていくたいですね。

製材所の2階にあるギャラリー。使い込んだ木の風合いが素敵な家具が並ぶ



## 原点を見つめ、新たに創出する 「木のある暮らし」。

酒樽や醤油樽作りに重宝され、吉野林業の発展を支えた吉野杉。需要が減少するなか「木のある暮らし」の価値を再認識させたい」と様々なプロジェクトに携わっているのが、吉野中央木材の石橋さんだ。「吉野杉の木桶復活プロジェクト」では吉野杉の大桶を製造し、毎年木桶仕込みの酒を造っている。「生活の中で木に触れる場面を増やしたいですね」と語ってくれた。



同じ吉野にある「美吉野醸造」で醸される木桶の酒。杉の香りが漂う上品な酒になる



▲プロジェクトの学習机は、2015年グッドデザイン賞特別賞を受賞

**A** Q ほかに、どんなプロジェクトに携わっていますか?  
**A** 愛学習機プロジェクトです。吉野の中学校で入学前にワークショップを行い、吉野杉の学習机を子ども達と一緒に作るというものです。3年間、「一番身近に触れる野材と過ごして欲しい」という思いから始めました。

**A** Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。  
**A** 製材所として、様々な案件を作りたいです。先人から受け継いだ吉野木材をさらに育み、次代へ繋いでいきたいです。



#### 吉野中央木材

吉野杉と吉野松の製材所。住宅や店舗、社寺などの建築材料や、大桶や木製タンクなどの容器の材料などを、すべてオーダーメイドで製造している。

☎0746-32-2181  
■奈良県吉野郡吉野町橋屋57



▲プロジェクトの学習机は、2015年グッドデザイン賞特別賞を受賞

**A** Q 現在のお仕事について、こだわっている事や工夫を教えてください。  
**A** 天然乾燥の吉野材にこだわっています。木の色艶や香りが段違いによくなるので手間やコストはかかりますが、最低でも1年以上は乾燥させています。

**A** Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。  
**A** 近年はDIYの需要も増えています。家や木材のプロとして、お客様と一緒に家を作っていく育てていくスタイルを増やしていくたいですね。



Making  
woodworking  
product.

from 下市町  
SHIMOICHI CHO



下市木工舎「市 ichi」  
森岡誠人さん 森幸太郎さん  
修業時代からの縁だという森岡さんと森さん。二人とも物静かで交わされる言葉は少ないが、工房を盛り上げていきたいという熱は共有しているそう。



▲実践で作品の仕上げを行う研修生。お手本を見せつつ丁寧に指導

►三木市の鍛冶職人が作った特別な鉋が美しい吉野杉の魅力を引き出す



新たな仲間と共に  
鉋で仕上げる  
かんな  
美しき吉野杉の家具。

リズミカルな鉋の音が響く。  
木目美しい椅子を仕上げるのは、2017年11月に移住してきましたばかりの森岡さん。ここ下市木工舎「市 ichi」は、吉野杉を使った鉋仕上げの家具制作と、若手職人の育成を目的に設立された工房だ。開設時より代表を務めていた森さんの任期が終了し、その後任として森岡さんが就任した。元々、森さんと共に三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森岡さん。「市 ichi」の設立時から何度もここを訪れていたため、違和感なくこの場所に馴染んだそう。「研修生たちが独立したとき困らないよう、実践ベースで指導しています」と森岡さん。森さんや四人の研修生と共に腕を磨く毎日だ。

リズミカルな鉋の音が響く。  
木目美しい椅子を仕上げるのは、2017年11月に移住してきましたばかりの森岡さん。ここ下市木工舎「市 ichi」は、吉野杉を使った鉋仕上げの家具制作と、若手職人の育成を目的に設立された工房だ。開設時より代表を務めていた森さんの任期が終了し、その後任として森岡さんが就任した。元々、森さんと共に三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森岡さん。「市 ichi」の設立時から何度もここを訪れていたため、違和感なくこの場所に馴染んだそう。「研修生たちが独立したとき困らないよう、実践ベースで指導しています」と森岡さん。森さんや四人の研修生と共に腕を磨く毎日だ。



ギャラリーに展示されている作品。木目の直線と滑らかな曲線が美しい

下市木工舎「市 ichi」  
吉野林業の拠点として栄えた下市町。林業と地域再興に取り組む、町の応援を受け、世界に向けて吉野杉の家具を発信している。

☎0747-68-9118  
奈良県吉野郡下市町阿知賀61

リズミカルな鉋の音が響く。  
木目美しい椅子を仕上げるのは、2017年11月に移住してきましたばかりの森岡さん。ここ下市木工舎「市 ichi」は、吉野杉を使った鉋仕上げの家具制作と、若手職人の育成を目的に設立された工房だ。開設時より代表を務めていた森さんの任期が終了し、その後任として森岡さんが就任した。元々、森さんと共に三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森岡さん。「市 ichi」の設立時から何度もここを訪れていたため、違和感なくこの場所に馴染んだそう。「研修生たちが独立したとき困らないよう、実践ベースで指導しています」と森岡さん。森さんや四人の研修生と共に腕を磨く毎日だ。

リズミカルな鉋の音が響く。  
木目美しい椅子を仕上げるのは、2017年11月に移住してきましたばかりの森岡さん。ここ下市木工舎「市 ichi」は、吉野杉を使った鉋仕上げの家具制作と、若手職人の育成を目的に設立された工房だ。開設時より代表を務めていた森さんの任期が終了し、その後任として森岡さんが就任した。元々、森さんと共に三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森岡さん。「市 ichi」の設立時から何度もここを訪れていたため、違和感なくこの場所に馴染んだそう。「研修生たちが独立したとき困らないよう、実践ベースで指導しています」と森岡さん。森さんや四人の研修生と共に腕を磨く毎日だ。



from 東吉野村  
HIGASHIYOSHINO MURA



維鶴木工  
藤川祐馬さん

藤川さんと山本さんは中学校の同級生。それぞれ別の道で家具に携わる仕事をしながら、二人で始めた趣味の家具作りが現在に至っている。

原産地の木材屋さんに直接行き、木目や節の有無などをチェックした確かな素材だけを使用

維鶴木工は、代表の藤川さんと親友の山本さんが共に立ち上げた家具工房。主に「吉野杉の無垢材」を使った椅子を作っている。こだわりは座り心地と強度。そして美しさ。「座面と背もたれの角度が重要なんです」と藤川さん。製品化まで何度も試作を繰り返し、実際に座つたり眺めたり、バーッごとに角度を変えたりしながら、よりよい座り心地や使い心地を追求している。塗装や仕上げも通常の何倍も時間をかけ、木の手触りと滑らかさを出していく。品質をとことん追求する一人が目指しているのは「日本を代表する」家具づくり。「椅子と言えば維鶴と言われるようになりたい」と高い志を掲げている。



▲座って叩くカホンという太鼓。椅子以外にも様々なものを製作

►3本足や幅の広い座面の椅子など、使用シーンに合わせて作られた椅子



維鶴木工

一般的には椅子に向かないと言われる吉野杉。吉野林業の発展やブランド推進に貢献したいとの思いから積極的に使用している。

☎0746-44-9540  
奈良県吉野郡東吉野村瀧野507

A 吉野杉や吉野の素材に関しての印象を教えてください。  
Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることはどんなことがありますか？

A 大阪出身で奈良には知り合いがないのですが、この仕事を通じて沢山の人とも縁を頂きました。大好きな椅子作りに熱中できるところにも感謝しています。辛いことは「生みの苦しみ」でしょうか。デザインを考えることは終わらない熟考です。機能や強度を立てるのは本当に難しく、まさに自分との闘いです。形にするまでのプロセスは体力も気力もすり減らしますね。

A 吉野杉に日々接することで、木目がまっすぐに通る時ですね。辛いのは思つよう作業が進まず、時間だけが過ぎていくことです。

Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じるることはどんなことがありますか？

A お客様に笑顔で作品を受け取ってもらえた時ですね。辛いのは思つよう作業が進まず、時間だけが過ぎていくことです。

Q 吉野杉や吉野の木材に関しての印象を教えてください。

A 実際に吉野杉の木材を触って感じたのは他にない特徴で、本当に美しいと思いません。地元の方々が森を大切にしているのは他にない特徴で、本当に美しいと思います。吉野杉を触った家具を通して、日本だけでなく世界に吉野杉の良さを広めたい。町長はじめ、町の人たちも応援してくれているので、下市町の活性化にも取り組んでいきたいですね。

Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じるることはどんなことがありますか？

A お客様に笑顔で作品を受け取ってもらえた時ですね。辛いのは思つよう作業が進まず、時間だけが過ぎていくことです。

Q 吉野杉や吉野の木材に関しての印象を教えてください。

A 実際に吉野杉の木材を触って感じたのは他にない特徴で、本当に美しいと思いません。吉野杉を使つた家具を通して、日本だけでなく世界に吉野杉の良さを広めたい。町長はじめ、町の人たちも応援してくれているので、下市町の活性化にも取り組んでいきたいですね。



